

2019年度特別支援学校と高等学校との交流及び共同学習実施事業

交流及び共同学習における取組例

県立出石特別支援学校

活動の実際（単元名）

- ①「作業学習」農園芸班但農交流（農業実習Ⅰ）
- ②「特別活動」高等部2年生但農交流（農業実習Ⅱ）

指導目標

- ①実習を通して、同世代の他校生とふれあい、関係を深め合う。
- ②実習を通して、同世代の他校生とふれあい、農作業について学ぶ。

生徒の実態

高等部2年生。知的障害。療育手帳A判定。国語、算数の学力は小学校低学年程度。ひらがなは書くことができる。計算は1桁の簡単な加減算ができる。時計は読める。時計を見て行動することができる。真面目な性格で何事にも一生懸命取り組もうとするが、手先が不器用なこともあり、美術作品等を完成させるためには、教師の手助けが必要である。言葉でコミュニケーションを取ることができ、日常会話など楽しく会話をすることができる。体を動かすことは好きであるが、球技は体の動きの堅さから不得意である。微細運動は時間かかるが自分で頑張ろうとする。どうしても難しいときは「たすけてください。」と言って支援を求めることができる。集団生活、指示理解、移動等問題はない。誰とでも親しくなることができる。きちんと挨拶をすることができる。保護者、本人の強い希望で農園芸班に入った。

学習活動（具体的な取組）

- ①但馬農業高校において、果樹ジャム作りと果樹パン作り作業に取り組んだ。
- ②但馬農業高校において、牛のブラッシングと花壇作り作業に取り組んだ。

支援と留意点

- ①初めての活動であり、事前に話をし、写真等を見せて説明をした。最初は、理解を促すために教師と一緒に作業に取り組んだ。否定的表現は避け、できたときは褒めるなど、気持ちを前向きにすることにつとめることで意欲を高める。
- ②動物を怖がる時があるので、教師が気持ちを和らげるために、言葉添えをしながら一緒に作業をしていく。無理なときは、次の活動に取り組ませる。

評価

- ①果樹ジャム作りと果樹パン作り作業に一生懸命取り組んでいた。細かい作業は難しかったが、教師と一緒に全ての作業に取り組めた。完成したジャムと蒸しパンを食べる中で達成感を感じることができた。
- ②牛のブラッシングでは、牛を怖がって参加できず、見学のみとなったが、花壇作りには一生懸命取り組むことができ、とても良かった。

活動の様子



- ①手先が不器用なこともあり、自分一人ではできない作業もあった。自分ではできないときには、「手伝って下さい。」と教師に伝えることができた。前向きに取り組んでいた。
- ②牛のブラッシングでは、牛を怖がって参加できなかったが、無理せずに、次の作業へと気持ちを切り替えるよう声かけを行った。その結果、花壇作りには一生懸命取り組むことができ、充実した一日を過ごしていた。

事後学習

- ①できなかったことは、あまり思い出させず、できたことを中心に振り返らせ、次への気持ちを高めていった。本人も、また、頑張りたいと言っていた。
- ②怖かったことは、思い出させず、楽しかったことを中心に反省会を持ち、農業や交流に対する前向きなイメージを育てた。

成果と課題

本生徒は、障害の状態等により、最初は交流及び共同学習に取り組むことが難しいことが予想された。しかし、友達の中で、作業学習や交流に楽しく取り組むことができた。牛が怖かったり、細かい作業が苦手だったりしたが、担任の合理的配慮により、活動を進めることができた。今でも、「但農実習、楽しかった。」と思い出している。今後も、活動に対するプラスの気持ちを高める支援をしていくことが必要だと感じている。